

### 「雪と氷」水の惑星からの贈り物(J451カ)

片平 孝／著 PHP研究所

わくせい

地球は水の惑星だ。水っていっても、陸地の水（真水）の76%は固体の雪と氷なんだから。六花といわれる雪の結晶、氷の上にあられる氷紋。一つとして同じものがない、宝石のような雪や氷たち。はかなく消える一瞬を切り取った、雪と氷の図鑑の決定版。

### おはなしの庭（冬のおはなし会）

日時：12月16日（日） 午後2時30分から30分くらい

内容：東京子ども図書館の浅見和子さん(市内在住)によるすばなし

場所：中央図書館 4階 会議室

対象：小学生から 定員：なし

費用：無料 申込み：不要



### = 休館日のお知らせ =

平成30年12月17日（月）～平成31年1月4日（金）は休館！

図書館システムの入替えと蔵書点検を行うために休館します。この間はインターネットでの蔵書検索などもできなくなります。ご理解とご協力をお願いいたします。

【中央図書館】

☆12月☆3・10・17～31日 ☆1月☆1～4・7・15・21・28・31日

【狭山台図書館】

☆12月☆10・17～31日 ☆1月☆1～4・15・28・31日



### さやまの100冊

「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は、狭山市の教育委員会がおすすめ

している本です。図書館ではこのマークが目印です。ぜひ読んでみてください。

### 狭山市立図書館

中央図書館

Tel.04-2954-4646

狭山台図書館

Tel.04-2958-3801

狭山市公式ホームページ

<http://www.city.sayama.saitama.jp/>

# よむぞうタイムズ

## 73号

5年生 6年生

狭山市立図書館 2018.12.1発行

寒い季節がやってきた。

狭山市はあまり雪が降らないけれど、地球上には何か月も雪や氷に閉ざされてしまう場所もある。マイナス60度って、いったいどんな寒さだろう。本を開くと、みんなの目の前にも「雪と氷」の世界が広がるよ。



### 「シャクルトンの大漂流」(EE7)

ウィリアム・グリル／作 千葉 茂樹／訳 岩波書店

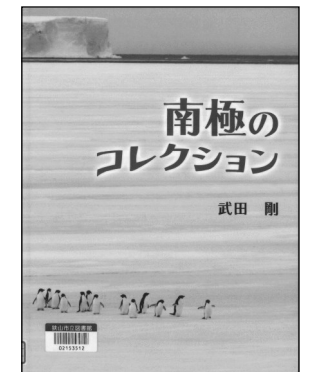


1914年、シャクルトンは南極大陸を横断すべく、26人の精えいと69頭の犬たちとともにイギリスを出航した。準備はばんだんのはずだった。しかし、南極大陸に近づく前に流氷帯が行く手をはばみ、立ち往生した船は厚い氷に閉じ込められた。「この世界では、わたしたちは無力な侵入者。」かれらの命をかけた冒険は始まったばかりだった。

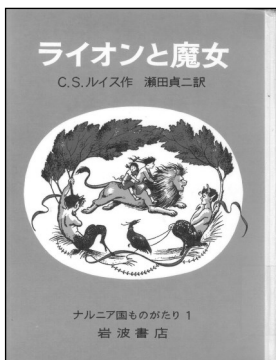
### 「南極のコレクション」(J402タ)

武田 剛／著 フレーベル館

「次は南極へ行ってくれ」新聞カメラマンのぼくは南極の昭和基地で一年間を過ごした。海の上を次々とおしよせる巨大な氷山にカメラを向ける。足下の氷床の下には100万年前の氷があり、解けた氷からは大昔の空気のはじける音がする。しずまない太陽にのぼらない太陽、そこには見たことのない地球の姿があった。



「ライオンと魔女」(JSil/JMil/JFil)  
C.S.ルイス／作 瀬田 貞二／訳 岩波書店



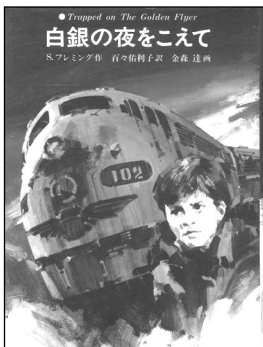
戦争をのがれて田舎に疎開したルーシたち兄弟四人。古いやしきの衣装ダンスは、ナルニア国の入口だった。美しいナルニア国は白い魔女に支配され、雪と氷に閉ざされていた。誇り高きライオンの王アスランと共に戦い、ナルニア国に光と平和を取りもどすんだ。ナルニア国物語は、全7巻の壮大なファンタジー！映画化もされたけど、やっぱり原作を読んでほしいなあ。



「白銀の夜をこえて」(JS7)

S.フレミング／作 百々 佑利子／訳 金森 達／画  
あかね書房

母を亡くしたポールは、父と離れてオークランドのおばさんの家で暮らすことになった。急行列車で37時間以上の旅。乗り合わせた人たちはみんな楽しんでいるが、一人で知らない土地へおもむくポールは、つらい気持ちでいっぱい。おまけに列車は大雪のためにどんどん遅れ、シエラネバダ山脈を越えたところで、とうとう前にも後にも動けなくなつた。荒れ狂う吹雪の山の中に、救助はくるのか？



「モーグルビート!」(JP7)

工藤 純子／作 加藤 アカツキ／絵 ポプラ社



雪深い村で育った一子は、疾風のように山の中をすべる山猿みたいなスキーヤーだ。そんな一子の家に、モーグルで世界をめざす美鈴が住むことになった。モーグルはこぶだらけの斜面を高速ですべり降りたり、ジャンプをきめたりする競技だ。初めてモーグルを見た一子は、これこそ自分がやりたかったスキーだと胸を熱くした。美鈴からモーグル勝負を挑まれた一子。「いけ！もっとはやく、ぶっちぎりの速さで！」



「モーグルビート! 再会」(JP7) も読んでみてね。

「子犬の引っこし大作戦」(JPヤ) 山岸 幸子／作 おぼ まこと／絵 理論社

風太の家の床下でのら犬が子犬をうんだ。春までおいてほしいと両親に頼んだが、保健所に連絡をされてしまう。スキー場で成り立つこの町では、イメージダウンにならないように「のら犬をなくそう運動」がちょうど始まるころだった。



子犬を助けなきゃ。風太は仲間と、子犬を山奥の小屋へ連れて行く。もちろん、親たちにはないしょだ。小屋までの道は、夏に何度も通っている。でも真冬の高原は、よそよそしい景色にかわっていた。山小屋からの帰路、風太たちに怖ろしい吹雪がおそいかかった。

「トリ・サムサ・ヘッチャラ」あるペンギンのだいそれた陰謀 (JSト)

ゾラン・ドヴェンカー／作 マーティン・バルトシャイト／絵 木本 栄／訳  
ひくまの出版

冬がいつから始まったのか、人々はもう忘れてしまった。町は凍りつき、まるで時を止めてしまったかのよう。一年たっても春がくる気配すらない。大人たちは一日中ねて過ごし、外に出るのは子どもくらい。その子どもだって、雪にも氷にもうんざりだ。「なんとかしなきゃ」と思ったリッキーは、寒さの張本人である冬に直談判することにした。そして冬を探して歩いていると、実にふしぎな生き物と出会った。

